

KANSAI*OSAKA

文化力

No.119

2014/SUMMER・夏

関西から

文化力
POWER OF CULTURE

人類の進歩と調和のために 万博記念基金事業にのぞむ

驚田清一氏(大谷大学文学部教授)

近藤誠一氏(近藤文化・外交研究所代表)

堀井良殷(関西・大阪21世紀協会理事長)

大阪文化考
バイオリニスト
五嶋みどりさんが子どもたちに伝えたこと

企業メセナ最前線

鴻池運輸株式会社 社長 鴻池 忠彦氏

活動報告

日本万国博覧会記念基金事業

アーツサポート関西

(チャリティファンディング・パーティー)

人類の進歩と調和のために —万博記念基金事業にのぞむ



「人類の進歩と調和」
をテーマに、1970(昭和
45)年に開催された日本
万国博覧会(大阪万博)。

今年4月、関西・大阪21世紀協会は、その理念と基金を後世に伝えていくための「日本万国博覧会記念基金事業」を承継した。今回は、同事業の審査会委員である鷺田清一氏と近藤誠一氏に、同事業の有意義な運営や今後の文化支援のあり方について、当協会の堀井理事長がご意見を伺った。(両氏に個別に行ったインタビューを、誌上鼎談の形に再構成した。)

ゲスト 鷺田清一氏
大谷大学文学部教授
せんだいメディアテーク館長
前大阪大学総長

近藤誠一氏
近藤文化・外交研究所代表
同志社大学客員教授
前文化庁長官

聞き手 堀井良殷
公益財団法人
関西・大阪21世紀協会理事長

「人類の進歩と調和」の当時とこれから

堀井 世界77か国から116のパビリオンが展覧した大阪万博は、1970年当時、アジアで初めて開催された国際博覧会で、国内外から6,400万人もの来場者がありました。お



堀井良殷
関西・大阪21世紀協会理事長

二方は、この万博にどのような思い出がおりでしょうか。

鷺田 学生運動が激しいさなかの1968年に大学生になった私にとって、1、2年生の頃は大学封鎖やら機動隊との衝突やらで、日々暗澹たる状況でした。そんな気分で万博に

行ったものですから、学生生活とはまったく異なるとても晴れやかで笑顔の溢れた世界に面食らってしまい、早々に会場を出てしまいました。後年、大阪大学の総長室から、あの未来的なパビリオンがすべてなくなり、皮肉にも古代モニュメントのような太陽の塔だけがそびえる万博跡地を毎日眺めて、夢を見ていたような不思議な感覚を持ったのを覚えています。

近藤 1970年といえば私も大学生で、友人たちと一緒に万博を観に行きました。人が多くて、暑かったことを覚えています。太陽の塔はとても印象的で、日本企業のパビリオンなども面白かった。日本の高度成長を世界に発信しているようすを間近に感じて、学生ながら誇らしく思いましたね。

堀井 大阪万博が終わって44年になりますが、当時掲げた「人類の進歩と調和」という理念に対して世界はどのように変化してきたのか。また現在、その理念はどのような意味を持つと思われますか。

鷺田 大阪万博で始まった1970年代は、日本が高度成長から高度消費社会に移行する転換期でした。それまで日本人は、アメリカ的豊かさを求めて電化製品やマイカーを買い揃え、鉄道や高速道路をつくるなど、生活の物質面のレベ

ルアップに躍起になっていました。それが1970年代以降、消費の目的が物質的充足から生活の質的向上へと変化していきました。ファッションブランドや健康食品、高級グルメがブームになり、ディスコやカフェバーが出現したのです。一方、公害や労使関係、国際紛争などの問題を抱えていた当時は、人間と自然、社会と階層、国と国など、誰もが世の中の調和を希求していました。大阪万博は、そうした時代の転換期を象徴するようなイベントで、「人類の進歩と調和」という言葉は、当時の時代感覚をまさに言い得ていましたね。

近藤 「人類の進歩と調和」という理念には、とても先見の明を感じます。なぜなら、今まさにその実践が重要な時期にあるからです。万博以後、確かに科学技術は進歩しました。しかし、それを扱う人間のモラルや精神は進歩したでしょうか。人間同士は調和しているでしょうか。例えば人間は民主主義という素晴らしい近代システムを生み出し繁栄してきましたが、今や民主主義はポピュリズムに陥っている。人々は目先の利益を叶えてくれる政治家を支持し、長期的な政策が置き去りにされる傾向にあります。経済にしても、世界中で金融危機が繰り返されてきました。喩えていうなら、極めて高性能なスポーツカーを酔っばらいが運転しているような危うさです。科学技術や制度は人類の幸せのために使うべきなのに、それを悪用、乱用するモラルの低下を危惧します。

鷲田 大阪万博で掲げた「調和」の概念は、現在、環境問題やエネルギー問題でよく使われる「サステナビリティ（持続可能性）」という言葉のように、表現を変えて生き続けていると思います。一方、バブル崩壊後、経済は停滞したままで、現在の30代半ばより若い人たちは、物心ついてから一度も「右肩上がり」というものを経験していません。高度消費社会というのは遠い昔の話です。そのため

鷲田
清一氏



「進歩」という言葉にリアリティーが感じられず、鼓舞されることもない。私たちがかつて求めた贅沢品に関心が低い若い人たちにとって、描くべき未来の社会像は「進歩と調和」を置き換えていうなら「成熟と共生」でしょう。先頃、元総務相の増田寛也さんが中央公論(2014年6月)に発表した、人口急減社会の提言を読んで愕然としました。将来、あれほど人口が激減し、国内のマーケットが縮小し、景気の高揚感もないなら、人々はたとえ質素でも質の高い満足を得ることに価値を見出そうとするでしょう。今後は、社会をいかに成熟させるかがポイントになるように思います。

近藤 現在は、人間同士の「進歩と調和」を真剣に考えなければならない時期にあると思います。例えば経済で「WIN-WIN」という言い方をしますが、実際は片方が多くの利益を得ています。進歩するために競い合うことは大事なのですが、敗者を救うシステムがなければ落ちこぼれが増え、競争が機能せず世界経済は不安定になります。対外関係、とりわけ中国や韓国との関係においても、お互いのモラルを高め、調和をめざすことが大事です。

「国際文化交流の促進」と「伝統文化の振興」

堀井 万博当時とは異なる社会状況を注視しつつ、私たちは社会・文化の発展に貢献するため、基金を有効に活用したいと思っています。この基金は6,400万人の入場者によってもたらされたもので、国のものでも自治体のものでも経済界の

ものでもありません。いわば大阪万博を成功に導いていただいた人々へ、世代を超えてお返ししようというものです。2015（平成27）年度の助成総額は約1億円を予定しています。

鷺田 基金は限られているのですから、どの領域に助成するか知恵を絞らなくてはなりません。それについては堀井さんが言われた「万博基金は国や自治体、経済界のものではない」という点に答えがあります。つまり、国や自治体、企業が行う助成事業と被っては意味がないし、助成を受ける側のありがたみも薄れるでしょう。まずは、どこがどんな助成をしているかしっかり調査しておくべきです。そのうえで、文化の長い歴史を考えてしっかりとしたフィロソフィーを持ち、文化全体に注意深く目配りをして、国や自治体、企業の支援が及んでいない事業者や、資金難で思うように活動できていないところを、巨視的な観点つまり文化の未来を考えて選択すべきです。いざ支援先が決定すれば、機動的に対応することも大事です。

近藤 バブル期の反省も込めて、この基金は人間のモラルを回復したり、近代民主主義を正しく使うためのディシプリン（訓練）に役立てられればいいですね。中国や韓国との関係改善につながる文化交流にも使えるし、伝統工芸や古典芸能が伝えている日本人の精神性を味わい、人間性やモラルを養う機会づくりに活用できればいい。学生による国際交流や、日本文化に関心をもつ外国のアーティストとの交流などを促進することで、人々が文化に深くかかわり、文化を愛し、文化を生活の一部にすることに繋がっていくよう期待します。

堀井 2015年度の助成は、「国際文化交流の促進」と「伝統文化の振興」の二つに重点をおいています。諸外国との相互理解の促進と、日本人のアイデンティティを保持する意図に沿った、さまざまな活動を対象としています。

鷺田 伝統文化といっても、ジャンルによっては手厚く保護されているところとそうでないところがあり、収入面でも差があります。伝統芸能の世界では、人間国宝級の人でも本業だけではやっていけないという話を聞きます。また、文楽などのように、昔も今もやっていることは同じなのに、時代によってもてはやされたり、冷遇されたりするのはおかしい。世間の評判や人気とは関係なく、守っていかなくてはならないのが伝統文化です。そうすることで日本人のアイデンティティや伝

統文化に対する敬意が醸成され、外国から尊敬されるようになるでしょう。パリに住むフランス人のほうが、日本の伝統文化に詳しいなんて情けない話です。

近藤 長い年月をかけて技術を磨いても、それで食べていけないかもしれないと思うと、伝統文化に携わりたいという人が集まりません。とりわけ筆や和紙、漆芸、染織などの伝統工芸においては、世界で作品が評価され、売れるしくみが必要です。将来性があるこそ後継者も入ってくるし、新たなセンスが加わった作品が評価されれば、マーケットも広がる。そうしてまた新たな後継者が入ってくる。そうした好循環のきっかけをつくるような助成だといいですね。現在、後継者育成事業を行っているNPOなどがありますが、その活動や助成金は細々としたものです。私は、こうしたNPOや財団、事業団などが個々に

活動するだけでなく、協議会のような形でゆるやかに連携し、助成金を増やす努力をすればもっと効果的に支援できると思いま

近藤誠一氏





す。最近、大学でこの話をしましたら、学生たちが非常に関心を持ってきて、参画したいというNPOも出てきました。

鷺田 国際交流を進める上で大切な留学生については、現在、日本の大学関係者はいかに留学生を獲得するかに関心を向けていますが、日本の将来を考えると、いかに多くの若者を海外留学させるかということの方が大事だと思います。グローバル化をいうのであれば、日本の中ではなく、外国に出ていかないと。

堀井 アメリカはフルブライト奨学金制度をつくって若者の国際交流を促進し、政治、経済、文化、科学技術など、さまざまな分野で活躍する人たちの世界的なネットワークの拡大に成功しました。それは長い積み重ねの成果であって、私たちの事業もそうした将来に貢献できる活動にすべきだと考えています。

近藤 外国にも日本文化に関心をもっている人はたくさんいます。外国のアーティストを日本に呼び込み、日本の伝統文化や自然、日本人の優れた精神性を気に入ってもらい、本国に帰って日本の魅力の代弁者になってもらう。日本人が海外に出て日本文化を説明するより、ずっと効果的でしょう。芸術系の学生や若いアーティストの国際交流を促進させることで、日本人が気づかなかったアイデンティティも醸成されるし、自分たちの自信にもつながります。すでにいろいろなアーティスト支援の組織がありますが、ここでも何らかの形で連携すれば、もっと効果的な活動ができると思います。

発信力の強化を

堀井 万博記念基金が設立されて以降、国内外で累計約4,300件、約189億円の助成を行ってきましたが、この活動が案外知られていないように思います。だからまずは多くの人に知っていただき、どんどん応募していただかなければなりません。現在、当協会のホームページや広報誌などで呼びかけているところです。

鷺田 サントリー文化財団は、「サントリー学芸賞」や「サントリー地域文化賞」を創設し、多くの人に知られています。とくに地域文化賞(1979年創設)は、都市化志向が強い社会的風潮のなかで、地方の文化を守り元気にする活動に取り組む人に光を当てようという理念をもって創設され、地域復興の一助となっています。今でこそ「地方の時代」といわれていますが、その先見の明には驚かされます。万博記念基金事業でも、活動理念にふさわしい「賞」をつくれれば、マスメディアも取り上げるだろうし、助成とアピールが同時にできるでしょう。応募者を増やすことに繋がります。

堀井 近藤さんは、2012年に「世界文明フォーラム」を成功に導かれ、内外のメディアで報道されました。ここでも「文化・芸術」をテーマのひとつにされましたね。

近藤 2012年の世界文明フォーラムは、2007年に続いて2回目です。民主主義、市場経済、科学技術といった近代システムは優れていますが、正しく使う能力や倫理観を持たなければ、逆に人間を不幸にするシステムになってしまう。そうした能力や倫理観を育成してくれるのは、学校での学科教育だけではなく、文化や芸術によるところも大きい。そこで、人々が正しく生きる力を養うために、文化・芸術が与えてくれる平和への志向や、既成観念や国境を乗り越えて結びつくアーティストの力を活用しようというテーマでセッションを行いました。学術・芸術分野のリーダーや若いアーティストたちが一堂に会し、しっかりとした議論を行うことで世界のメディアが注目し、政治家も反応します。現在、文明論をテーマにした世界フォーラムはこれだけです。

堀井 本日は貴重なご意見をありがとうございました。

鷺田清一(わしだ きよかず)氏

京都大学文学部哲学科卒。2007年第16代大阪大学総長、2011年より大谷大学文学部哲学科教授。専門は哲学、倫理学で、社会の現場と哲学理論を結ぶ「臨床哲学」の第一人者。著書『モードの迷宮(サントリー学芸賞)』『「聴く」こと力(桑原武夫学芸賞)』など。1949年京都府生まれ。

近藤誠一(こんどう せいいち)氏

東京大学教養学部教養学科イギリス科卒。同大学院法学部政治学研究科中退。外交官を経て、2010年文化庁長官に就任。三保の松原を含む富士山の世界文化遺産登録に尽力。2013年退官。近著『FUJISAN 世界遺産への道』毎日新聞社／2014年6月。1946年神奈川県生まれ。

大阪万博の収益金を国際文化交流や 伝統文化振興などに活用

日本万国博覧会記念基金は、「人類の進歩と調和」をテーマに開催された日本万国博覧会(1970[昭和45]年)の成功を記念し、その理念と資産を後世に伝えていくことを目的として、1971(昭和46)年に設立されました。

その財源は、国や地方公共団体からの出資ではなく、大阪万博への日本を含む77か国から116という多くのパビリオン出展と、国内外からの6400万人を超える来場者による約195億円もの収益金のうち、博覧会跡地の公園としての整備費40億円を除いた155億円でありました。

基金の設立以来、国からの補助金を一切受けず、万博の成功を記念するにふさわしい国際相互理解の促進や文化的活動

に対して、日本国内のみならず、欧米・アジアなどさまざまな国に対し、累計約4,300件、約189億円の助成をおこなってきました。

2014(平成26)年4月より関西・大阪21世紀協会が当事業を承継し、基金運用収入の1/2をもって基金事業を運営することになりました。(残りの1/2は大阪府の日本万国博覧会記念公園事業特別会計への寄付金となります。)

「平成27年度日本万国博覧会記念基金事業」の助成総額は約1億円の予定で、助成重点テーマを「国際文化交流、国際親善に寄与する活動」および「日本の伝統文化の伝承および振興活動」として、積極的に支援していきます。(募集案内は裏表紙参照)

助成の対象となる活動

万博の成功を記念するにふさわしく、かつ公益的な、次の活動を対象としています。

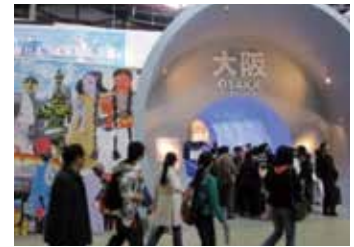
(1) 国際相互理解の促進に資する活動

① 国際文化交流、国際親善に寄与する活動

例 留学生支援など海外との人材交流、
劇団・オーケストラなどの海外公演、
外国における日本庭園の建設、
ジャパンフェスティバルの開催など



オーケストラ海外公演



国際博覧会出展

② 学術、教育、社会福祉、医療および保健衛生に関する国際的な活動

例 国際会議の開催、
外国における
日本語教育用
機材の購入、
日本語出版物
の翻訳など



国際会議開催

③ 自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動

例 環境に関する国
際会議、
環境技術に関
する人的交流、
環境に関する
テレビ番組の
制作など



植林活動

(2) 文化的活動

① 日本の伝統文化の伝承および振興活動

例 日本国内における文楽や能など伝統芸能の公演および普及活動など



文楽の公演



能の公演

② 芸術及び地域文化に関する活動

例 日本国内における郷土芸能民
芸の振興活動・地方劇団や楽
団の公演など



郷土芸能の公演

助成金額

(1) 国際相互理解の促進に資する活動

助成金は、100万円から最高1000万円の範囲内で、助成対象事業費の合計に対し1/2以内の額とします。したがって、事業者は、助成対象事業費の1/2以上を、他の助成金を除く自己資金またはその他の資金で賄う必要があります。

(2) 文化的活動

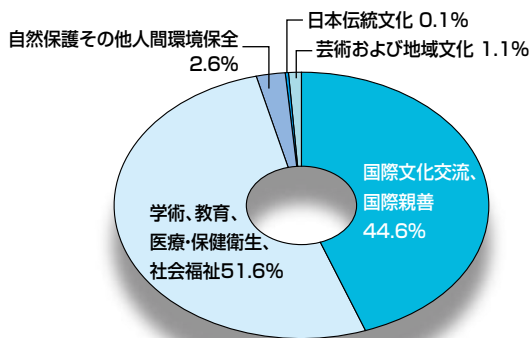
助成対象事業費の合計額に対し1/2以内の額か、助成対象事業費に応じて定額のどちらかを選択できます。

- 助成対象事業費の合計に対し1/2以内の額を選択した場合は、事業形態にかかわらず400万円を上限とします。したがって、事業者は助成対象事業費の1/2以上を、他の助成金を除く自己資金またはその他の資金で賄う必要があります。
- 助成対象事業費に応じて定額を選択した場合は、助成対象事業費の合計額に応じて50万円から100万円までの範囲内で定額交付とします(助成対象事業費の合計額が50万円以上あることが条件で、それに応じた金額を10万円未満は切り捨てて交付します)。

助成実績

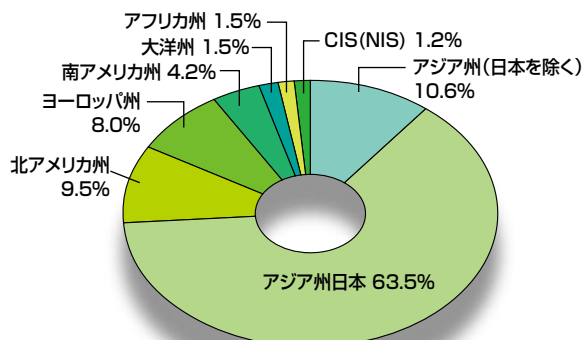
(平成26年3月現在)

分野別助成実績(S46~H26)



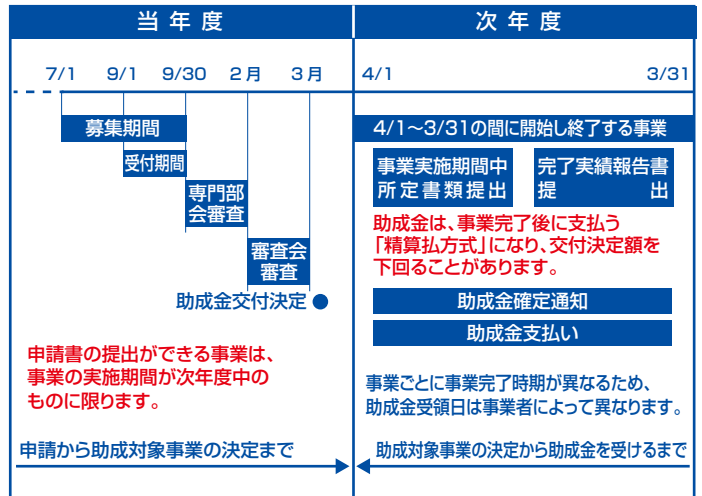
■実績/(4,330件) 188億5,600万円

地域別助成実績(S46~H26)



■実績/(4,330件) 188億5,600万円

助成事業スケジュール



日本万国博覧会記念基金事業審査会

審査会審査委員

稲葉 カヨ	京都大学副学長、京都大学大学院生命科学研究所教授
近藤 誠一	近藤文化・外交研究所代表、同志社大学客員教授、前文化庁長官
坂本 和一	立命館大学名誉教授
西尾章治郎	大阪大学大学院情報科学研究科教授
三輪 昭	外務省特命全権大使(関西担当) / 政府代表
森西 真弓	大阪樟蔭女子大学文学部国文学科教授、雑誌「上方芸能」編集代表
鷲田 清一	大谷大学文学部教授、せんだいメディアテーク館長

専門部会委員

【国際交流・相互理解部会】

岡田 暁生	京都大学人文科学研究所教授
苧阪満里子	大阪大学大学院人間科学研究科教授
河島 伸子	同志社大学経済学部教授
木山 博資	名古屋大学大学院医学系研究科教授
杉原 充志	羽衣国際大学副学長・現代社会学部教授

【学術・教育・環境部会】

勝岡 洋治	大阪医科大学名誉教授
木全 吉彦	大阪ガス株式会社エネルギー文化研究所長
高橋 憲明	中之島科学研究所長、大阪大学名誉教授
谷口 研二	国立高専機構 奈良工業高等専門学校長、大阪大学名誉教授
中村 佳正	京都大学大学院情報科学研究科教授

【文化・芸術部会】

河内 厚郎	文化プロデューサー、神戸夙川学院大学観光文化学部観光文化学科教授
窪田 好男	京都府立大学公共政策学部公共政策学科准教授
佐々木 亮	公益財団法人サントリー芸術財団音楽事業部長、サントリーホールシニアプロデューサー
根岸 一美	同志社大学文学部美学芸術学科任期付教授、大阪大学名誉教授
福 のり子	京都造形芸術大学アートプロデュース学科教授 京都造形芸術大学アート・コミュニケーション研究センター代表

(敬称略 五十音順)

問い合わせ先

公益財団法人 関西・大阪21世紀協会 万博記念基金事業部
〒530-6691 大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル29階
TEL06-7507-2003 E-mail jec-fund@osaka21.or.jp
▶基金事業の詳細については下記ホームページをご覧ください。
<http://www.osaka21.or.jp/jecfund/>

世界的バイオリニスト 五嶋みどりさんが子どもたちに伝えたこと

大阪文化考

Vol.14

平成26年度
日本万国博覧会記念基金 助成事業



児童に愛用のバイオリン
(1734年製・グアルネリ)で
弾き方を教える五嶋さん

コンサートに行くことや音楽家との交流を望みながら、病院や遠隔地で暮らしているなど、さまざまな事情でホールに出向くことが叶わない子どもたちがいる。アジアの国のなかには、いまだにクラシック音楽の生演奏を聴く機会がほとんどない地域もある。五嶋みどりさんは、そうした環境にある子どもたちのために、国内外の若手演奏家と協力し、アジア各国や日本の学校、病院、児童福祉施設などでの訪問コンサートを続けている。

この活動は、五嶋さんが理事長を務めるNPO法人「ミュージック・シェアリング」の活動の一環で、「ICEP (International Community Engagement Program)」と呼ばれ、形態を変えながら今年で22年目。学校訪問は同法人が公募し、今年6月20日、大阪市北区の市立堀川小学校でのコンサートが実現した。関西・大阪21世紀協会は、平成26年度の日本万国博覧会記念基金の助成事業のひとつとして、この活動を支援している。

この日、講堂で待つ児童たちが思いのほか緊張して見えたのは、五嶋さんが、自分たちと同じ11歳でニューヨーク・フィルハーモニックと共演してデビューし、世界中から「天才少女」と呼ばれたことを教科書を読んで知っているから。現れた五嶋さんは、ミュージック・シェアリングのロゴが入ったTシャツに花柄のスカートというラフな出で立ち。包み込むようなやわらかな微笑みが、一人ひとりに「一緒に音楽を楽しもうね」と優しく語りかけているようでもある。そ

の温かな印象で緊張感はずぐに解け、講堂は一瞬で和やかな雰囲気になった。

五嶋さんは、世界からオーディションで選ばれた3人の若手演奏家とカルテットを組み、モーツァルトの『アイネ・クライネ・ナハトムジーク』やチャイコフスキーの『くるみ割り人形』より「ロシアの踊り」など5曲を披露した。

「いつも本物の音楽を広めたいと思いながら活動しています」という五嶋さん。ミュージック・シェアリングの理念である「本物の音楽」とは、完成度や芸術性が高いことと、音楽の本質を知ることにある。つまり、音楽を作った人の人間性に触れ、音楽を聴いたり演奏することで他者に何をもたらし、あるいは何をもたらさないかを経験的に知ること。堀川小教諭の寺澤紫寿江さん(音楽主任)も、「五嶋さんたちの演奏技術だけではなく、音楽によって

人の気持ちを理解したり、頑張ることの大切さを感じ取ってもらうのが目的」という。

コンサート終了後、五嶋さんは児童の質問に応じて「上手に演奏するためには、短気にならず、毎日心をこめてコツコツ練習すること」「演奏中は演奏することだけに集中している」などと語った。「本物の音楽」に直に触れた児童たちは、その言葉からも、「音楽の力」をしっかりと聞き取ったに違いない。

(ライター 三上祥弘)



五嶋みどりさん

大阪府出身、ロサンゼルス在住。アメリカの教科書や教育番組「セサミストリート」などに登場する、欧米でももともとポピュラーなクラシック音楽家。1992年に非営利団体「Midori&friends(ニューヨーク)」「みどり教育財団東京オフィス(現 認定NPO法人ミュージック・シェアリング)」を設立。南カリフォルニア大学ソントン音楽学校弦楽学部長、2007年より国連平和大使。



1,650名参加で大盛況 関西から世界へ、市民の力で芸術・文化を育もう!

チャリティ・ファンドレイジング・パーティ開催

今年4月1日に発足したアーツサポート関西(事務局:関西・大阪21世紀協会)は、去る5月8日、リーガロイヤルホテル大阪において、支援資金を集める「チャリティ・ファンドレイジング・パーティ」を開催した。財界人や文化人、アーティスト、マスコミなど総勢1,650名が参加した。

パーティーの冒頭、発起人を代表して建築家の安藤忠雄氏が、「企業の発展に不可欠な創造力は芸術から生まれることもある。そのためにも関西のアーティストをサポートしていきたい」と挨拶。続いて乾杯の発声に立った上方落語協会会長の桂文枝氏が、「さまざまな分野の大衆芸能にもサポートを」と呼びかけた。

さらに歌舞伎俳優の中村翫雀氏や歌手の西田ひかる氏、宝塚歌劇団星組元トップスターの湖月わたる氏らからも、関西の文化に対する熱い思いやASKへの期待の声寄せられたほか、大槻文蔵氏による能楽や大塚善章氏らによるジャズコンサートなども披露され、会場は大いに沸いた。

併設会場ではチャリティーサイレントオークションも行われ、安藤忠雄氏直筆のアートブック「ANDO」や、指揮者・佐渡裕氏のサイン入り指揮棒、タイガーウッズ選手のサイン入りドライバーなど、発起人や財界人ら所有の“お宝”が放出され、総額約300万円で落札された。

この日、パーティーのチケット収入や寄付、オークションで集まった約2,400万円は、関西の文化を支援する助成資金に充てられる。ASKでは引き続き寄付やサポーターズクラブへの入会を募り、9月から助成申請を受け付ける。

アーツサポート関西 (Arts Support Kansai) とは —

市民の力で関西の芸術・文化を育む新しい民間支援組織。市民が自分の意志で寄付を行い、好きな分野や団体などへの支援に直接関わる。ASKへの寄付は税の優遇措置が受けられるほか、5万円以上寄付する場合は、好きな名称で個別寄金をつくることもできる。助成後はパトロンとしてアーティストたちと交流する機会も得られる。

助成対象…関西で芸術・文化活動をする団体または個人

助成分野…美術・デザイン、音楽、演劇、ダンス、映像・映画、伝統芸能、特定のジャンルにとらわれない複合的芸術・文化活動(生活文化、スポーツも含む)

詳しくはウェブサイトをご覧ください。 artssupport-kansai.or.jp



会場風景

世界的なアーティスト・名和晃平氏が会場を演出。同氏の彫刻や若手アーティスト田辺真弓氏作品でアーティストチックな雰囲気創られた。



安藤忠雄氏(右)と桂文枝氏(左)



書道家・江口大象氏(右)と箏演奏家・片岡リサ氏(左)のコラボレーションによる実演。ここで書かれた江口氏の作品も出品された。(チャリティーオークション会場にて)



大塚善章氏率いる「ゴールデンシニアトリオ」。同氏(80歳・傘寿)とピブラホンの鍋島直昶氏(88歳・米寿)、ベースの宮本直助氏(77歳・喜寿)の寿寿トリオ。(会場舞台にて)

サポーター
募集中!

「アーツサポート関西サポーターズ・クラブ」

アーツサポート関西サポーターズ・クラブは、芸術や文化で関西を活性化するために、関西一円で活躍するアーティストを支援し、サポートするクラブです。

サポーターの活動

- ・ASK助成事業でのボランティア活動
- ・ASKチャリティ・イベントの企画、運営協力
- ・アーティスト支援への協力
- ※事務局より随時メールなどで活動の案内をさせていただきます。

クラブへの加入(サポート金)

- 年間10,000円
- ※芸術・文化の助成のほか、ASK運営費やクラブ事務費に充てさせていただきます。

お問合せ

アーツサポート関西 事務局(担当・大島)
〒530-6691 大阪市北区中之島6-2-27
中之島センタービル29F
公益財団法人 関西・大阪21世紀協会内
☎06-7507-2004 FAX06-7507-5945
Email: ask@osaka21.or.jp

物流はもとより、さまざまな産業分野で生産工程の業務請負など、幅広いソリューション事業を世界規模で展開する鴻池運輸。ルーツは約130年前の明治13年、大阪市此花区の伝法(当時は北伝法村)で、鴻池忠治郎氏が運輸業を興したことにさかのぼる。「企業が専門性を活かして社会に貢献できることは多い」と語る鴻池忠彦社長に、会社として、個人としての文化・芸術や社会貢献への思いをお聞きした。

心の交流を大切に 伝統文化継承と先端技術開発に貢献

プロ集団として地域への恩返し

鴻池家の菩提寺である此花区伝法の正蓮寺で、毎年8月26日、1721年から続く「川施餓鬼(かわせがき)」という伝統行事が行なわれています。船の上から檀家や一般の皆さんが戒名を書いた「経木(きょうぎ)」を流し、先祖の供養をする行事で、大阪市の「無形民俗文化財」にも指定されています。私どもは毎年、会社の船を淀川に出すとともに、船の乗り降りの誘導や安全確保など、運営のお手伝いをしています。不思議なことに、私の覚えている限り、雨が降ったことはありません。大きな魚が船に飛び込んできて驚くこともありますが、毎回心が洗われ、とてもすがすがしい気持ちになります。

おかげさまで、地域の役に立ちたいという思いは社員にも浸透しており、社員からの提案で、「130年分の恩返し」として、淀川の清掃をこれまで4回実施しました。毎回、ペットボトルや発泡スチロール、ボールなど、驚くほど大量のゴミを回収しています。そうしたボランティア活動だけではなく、私どもが社業を通じて環境や社会に貢献できるテーマも多いと思います。ロボット、冷凍、産業廃棄物処理、物流、その他、多岐にわたって、豊富な専門知識や経験を持つ社員が多くいますので、それを活かして地域社会に恩返しができると思っています。その一つが最先端の物流技術です。

小学生が働く喜びを知る

「KONOIKEキッズワークショップ」

今年4月、グランフロント大阪で、小学生を対象にした「KONOIKEキッズワークショップ」を開催しました。普段、子どもさんたちが物流の舞台裏を見る機会は少ないので、身近な例として、会場にネット通販の現場をつくり、実際の端末を操作しながら、受注から商品のピッキング、箱詰め、出荷までの工程を疑似体験してもらいました。お菓子を教材にして持ち帰ってもらうなど、手づくりのイベントならではのさまざまな工夫を凝らし、子どもさ

んたちも楽しく物流を学んでくれたようです。とても好評でしたので、今後も繰り返し継続的に開催して、仕事の流れや働く喜びをしっかりと伝え、その中から将来、物流の仕事をしたいと思う子どもさんが出てきてくれたら本望です。

国際親善イベント「コウノイケ・カップ2013」

昨年、私どもはベトナムでの事業開始から20周年を迎えました。同国へのお礼の意味も込めて、何か心の通う記念事業をしたいと考え、ホーチミン市のサッカー協会と大阪のNPOにご協力いただき、中学生のサッカー大会「コウノイケ・カップ2013」を企画しました。現地で行ったトーナメントで優勝した1チームを日本に招待し、11月に堺市のJグリーン堺サッカー場で、日本の中学生2チームとの交流戦を行ないました。

実力伯仲の熱戦を通じて、国際親善という貴重な経験をした中学生たちは、全身で喜びを表現していました。彼らが社会人になったときに、この日のことを思い出し、日本とベトナムの交流を深めるきっかけになればと思います。

海外チームの受け入れは非常に手間のかかることですが、代理店などに任せず、すべて社員が運営しました。試合当日も多くの社員が家族連れで応援に駆けつけてくれました。インドにも弊社の拠点がありますので、今回はベトナム・インド・日本で交流戦をし、将来はもっと参加国をふやして、国際的な友好の輪を広げていきたいと思っています。

大阪発「ロボットアーム」

鴻池技術研究所では、ロボット、冷凍、環境、物流の技術を開発しています。そのなかで、ロボット専門の会社との協働により、「ロボットアーム」を開発しました。元々は、輸入貨物をコンテナから手作業で降ろす際の、荷役の負担を軽減するためにはじめた研究でした。

現在、このロボットのデモ機をグランフロント大阪・ナレッジキャ

ピタルのThe Lab.に展示しています。多くの来場者が興味深く操作され、貴重なご意見も多くいただいています。大阪大学との共同研究講座でもロボットの活用を研究しており、いずれ、介護や身体の不自由な方の補助などの分野にも応用できればいいと思っています。

ナレッジキャピタルは大阪独自の誇るべき文化施設です。大阪に本社を置く企業として、いろんな形で活用し、応援していくつもりです。

関西・大阪の多彩な文化を守り育てたい

私は芸術全般が好きで、音楽や絵画もよく鑑賞します。小児病棟に長期入院している子どもたちのため、四季の変化が感じられる楽しい絵画を病院に寄贈したこともあります。また最近、昔取った杵柄で、アコースティック・ベースの演奏を趣味として楽しんでます。

関西・大阪には多彩な文化があります。挙げればきりがありませんが、たとえば、私の母方が道具商だった影響か、お茶の文化への憧憬があります。茶道の流儀や作法は日本特有のもので、非常に尊いと感じます。それは、日本のおもてなしの文化にも通じるものです。

ただ最近、そういったものが存亡の危機にさらされていることも事実です。価値ある資産を守り、育てたいという気持ちのある人は多いのに、寄付行為も課税対象になることが一つの大きな問題です*。文化・芸術の振興が経済にも大きな波及効果をもたらすことを、お役人にはなかなか理解してもらえません。企業経営も、短期的な利益を追うだけでは、中長期の事業展開はできません。文化も事業も、育てるには時間がかかるのです。文化・芸術を支援するた

めの寄付を、企業の費用と認めるような制度が整えば、関西・大阪はもっと豊かで文化の薫り高い国際都市になると思います。(※編集部註:特定公益増進法人への寄付には、税制上の優遇措置が講じられます。)



鴻池 忠彦(こうのいけ ただひこ)氏

1953(昭和28)年、大阪府生まれ。1976年関西学院大学商学部卒業後、(株)鴻池組に入社。1981年同社を退社し鴻池運輸に入社。1983年常務取締役、1987年専務取締役、1989年代表取締役副社長、2003年同社長に就任し、現在に至る。



正蓮寺・川施餓鬼
(2013年8月26日・此花区伝法)



淀川クリーンアップ活動
(2014年4月26日・此花区)



コウノイケ・カップ 2013(2013年11月・Jグリーン堺サッカー場)



ロボットアーム(デモ機)の展示
(2014年7月・グランフロント大阪)



KONOIKEキッズワークショップ
(2014年4月・グランフロント大阪)

鴻池運輸株式会社

本社 大阪市中央区備後町2-6-8 / 東京支社 東京都港区虎ノ門3-17-1

創業1945年。複合ソリューション事業、国内物流事業、国際物流業を展開。資本金16億8,800万円、売上高(連結)2315億円(2014年3月期)、従業員約20,000名(2014年4月1日現在)。

平成 OSAKA 天の川伝説 2014

7月7日／大川・天満橋～北浜周辺

主催:平成OSAKA天の川伝説推進会議
(関西・大阪21世紀協会
平成OSAKA天の川伝説実行委員会)



夜空の「天の川」を天満の川に再現する『平成OSAKA天の川伝説』が、今年も七夕の夜に開催された。

第6回となる今年は、八軒家浜やふれあいの岸辺(天神橋南詰)、天神浜(同北詰)へとエリアを拡げ、約5万個の「いのり星[®]」(LED光源を内蔵した光球)を放流。約4万8千人が幻想的な光景を楽しんだ。

イベントが行われた天満橋一帯は、難波宮が営まれた頃、国の平安と疫病退散を星に託して願う地であった。そのため「天神祭」も古くは7月7日に行われた。平安京に遷都されて以降も、新しく即位した天皇は、この地

で行われる「八十島(やそしま)祭」に使者を遣わし、大海原の生命力を身につけたと伝えられている。

この国生みの祭祀や星賑信仰に彩られた『平成OSAKA天の川伝説』は、大阪の夏の風物詩として、また『大阪城フェスティバル(7月1日～10月8日)』のキックオフイベントとして位置づけられている。

午後7時、故事にならって、大阪天満宮と生國魂神社の宮司による水都大阪の発展と安全成功を願う神事でスタート。八軒家浜棧橋の特設舞台上、増田いずみさん(オペラ歌手)、安藤史子さん(フルート)、平山朋子さん(ピアノ)による七夕コンサートの優雅な調べが響くなか、多くの来場者がいのり星[®]を放流し、祈りを捧げた。

また今年は、「天の川カクテル」が登場したことで話題になった。創作者は、日本を代表するバーテンダー・林壮一さん(BAR CADBALL:大阪市中央区)。赤紫蘇や柚子といった旬の和風材料を使い、アルコール度数を抑えたさっぱりとした口当たりは、この季節ならではの美味しさ。薄紫色の夜空と銀色の天の川、寄り添う彦星と織姫を表現したロマンチックな飾り付けで、浴衣姿のカップルに似合う夏ならではの一品に仕上がっている。

「天の川カクテルがこのイベントひいては地域活性化の一助になれば嬉しい」という林さん。カクテルの種類はまさに星の数ほどあるが、七夕といえは「天の川カクテル」そして「平成OSAKA天の川伝説」を思い出してほしいという願いを込めて、平成OSAKA天の川伝説推進会議公認のカクテルとなった。



八軒家浜棧橋特設ステージでの「七夕コンサート」
増田いずみさん(オペラ歌手)、安藤史子さん(フルート)、
平山朋子さん(ピアノ)

平成OSAKA天の川伝説推進会議公認 天の川カクテル

ビフィータージン、柚子リキュール、赤紫蘇シロップ、レモンジュース、ブルーキュラソーをシェイク。グラス表面に蜂蜜でつけたアラザンで「天の川」を、星型に抜いたグレープフルーツとリンゴの皮で彦星と織姫を表現(BAR CADBALLにて)。



林 壮一さん(BAR CADBALL)
バーテンダー歴25年のベテラン。2000年にバーテンダーの世界コンクール「ビフィーター・インターナショナル・カクテル・コンペティション」に日本代表として参加しグランプリを受賞するなど、国内外から一目置かれている。

「天の川カクテル」が飲めるところ ※旬の素材を使用のため数量限定で販売

BAR CADBALL(カドボール) 大阪市中央区石町2-2-20 近松ビル1F ☎06(6944)2918

ルポンドシエル 大阪市中央区北浜東6-9 ルポンドシエルビル ☎06(6947)0888

大阪キャッスルホテル「メイン・バー 川面」 大阪市中央区天満橋京町1-1 大阪キャッスルホテル7F ☎06(4790)2400

南大阪・上町台地フォーラム ～文化と歴史の宝庫・堺市を訪ねる～

4月4日／堺市

主催：関西・大阪21世紀協会



日本で8番目に大きいニサンザイ古墳(反正天皇の空墓)にて



土塔(大阪府堺市中区土塔町)にて

中世日本最大の玄関口であった堺市を、3回にわたって訪れる企画の第一回。堺市役所21階展望台に集合した一行24名は、地上80メートルからの絶景を楽しんだあと、堺市博物館に移動して百舌鳥古墳群の発掘調査の結果や、仁徳天皇陵から出土した兜や鎧の模型などを見学。学芸員から、仁徳天皇陵の築造には16年の歳月をかけて200万人以上が従事したことや、その仕事は苦役ではなく食糧も支給されて和やかに進められたことなど、数々の興味深いエピソードを聞いた。

その後、堺観光ボランティアの案内で、仁徳天皇陵古墳や履中天皇陵古墳などの百舌鳥古墳群を視察して回った。さらには奈良時代の高僧・行基によって築かれた、日本で唯一の土と瓦で造られた仏塔「土塔(どとう)」など、堺の歴史の多様さ奥深さを知る視察会となった。

伝統文化の保存・継承 御田植神事

6月14日／住吉大社(大阪市住吉区)

神田代舞(みとしろまい)を奉納した御稔女(みとしめ)役の大葉晃子さん



中央舞台上で八乙女たちが田舞を舞うなか、植女の代わりに御田植をする赤いたすきの替植女たち。



早苗を受ける植女(第一本宮)

穀物が豊かに育ち、稲穂が実る秋を迎えるため、毎年恒例の「御田植神事(重要無形民俗文化財)」が行われた。住吉大社ではとくに華やかで古式を多く遺している神事で、植え付けられる苗には強力な穀霊が宿るといわれている。

211(摂政11)年、神宮皇后が住吉大社の鎮座に際して神田を定め、長門国(現在の山口県)から植女を召して御田植奉仕をさせたのがはじまり。明治に入って境内の土地が民間に払い下げられてしまったが、大阪新町廓が御田を買い上げ、芸妓が植女となって神事廃絶の危機を救った。現在は関西・大阪21世紀協会(上方文化芸能運営委員会)などが、大阪の誇るべき伝統文化・神事芸能として支援している。

この日は多くの参拝者が御田につめかけ、萌黄色の装束をまとった植女や御田に設えた舞台での神田代舞(みとしろまい)などに見入った。

交流サロン21café これからのまちづくり

6月12日／田中清剛氏(大阪市副市長) 於：中之島プラザ(大阪市北区)

主催：関西・大阪21世紀協会



田中清剛氏

大阪市建設局長として活躍し、退職後の2012(平成24)年から大阪市副市長として大阪のまちの整備計画に携わる田中清剛氏を招き、大阪市の「まちづくり」の歴史や現状、今後の方向性などについて話を聞いた。

田中氏は、大阪におけるまちづくりの近況のひとつとして、「うめきた2期」事業について説明。土地利用計画やまちの管理運営などを民間提案によって推進する計画について、平成25年末で40者(国内23者、海外17者)の提案があり、平成26年3月27日時点で、優秀な提案をした20者に決定したことを紹介した。また、特定地域の地権者から一律に負担金を徴収し、その地区の歩道や公園、地下道などの整備・維持・管理などを行う大阪版 BID(Business Improvement Districts)制度についても説明した。

さらに私見として、インフラの維持管理の時代にあっては、つくるだけでなく、壊す(あるいは保存する)ときのことを考えて事前にコンセンサスを得ておくことも必要だと強調した。

ワークショップフェスティバル「ドアーズ」 DOORS 8th

▶ 2014年8月8日(金)～12日(火)
大阪市立芸術創造館、旭区民センター



パンフレット(プログラム)は大阪市営地下鉄各駅や公共の文化施設などにあります。ホームページにも掲載しています。

[ドアーズワークショップ](#) [検索](#)

参加費 1講座500円(当日精算)
※講座によって上限500円のマテリアル費をいただく場合があります。

対象年齢 講座によって異なります
開始時刻 10:30、13:00、15:00、17:00、19:30(1日最大5講座)
※各講座90分、開始30分前より受付開始

会場 大阪市立芸術創造館、旭区民センター
大阪市旭区中宮1-11-14
・大阪市営地下鉄谷町線「千林大宮」駅4号出口 徒歩10分
・京阪電鉄「森小路」駅 西出口 徒歩10分
・大阪市バス 大阪駅前より幹83号系統「守口車庫前」行または、幹78号系統「花博記念公園北口」行「旭区役所前」下車すぐ(乗車時間約40分)

お問合せ ☎090-3945-6755
(専用回線 / 10:00～20:00)

お申込み 上記電話またはWEB
(<http://www.iwf.jp>)にて受付(先着順)
※ご予約の際は、ワークショップの番号、タイトル、申込者のお名前、電話番号、年齢などをお伝えください。

さまざまな文化を1講座500円でお試し体験! 100種類のプログラムでお待ちしています!

今年8年目を迎えた「DOORS」は、「おとなも子ども!」がテーマ。就学前の子ども(2歳～、3歳～、4歳～)と一緒に、親子で楽しめるプログラムもたくさん用意しました。もちろん、遊びながら学ぶのは子どもだけではありません。豊かな感性と遊び心をもった講師のもとで、「今日はダンス、明日は語学」と“ハシゴ”するもよし。この夏、あなたの好奇心の扉を開けてみましょう!

無料ワークショップも開催!

京都で大人気の公演「GEAR-ギア-」から、プロマジシャン・橋本昌也さんが来場。4歳以上の子どもに、簡単にできる手品を手ほどきします!

▶ 8月9日(土) 13:00～、14:00～、15:00～(3回・当日受付)
▶ 旭区民センター1階ロビー(4歳以上の子どものみ)

今年のイチオシ! 4コマ漫画で覚えるシンガポール料理講座!

シンガポール研究家「海南鶏飯ハンター」が、4コマ漫画で描いたレシピでわかりやすく料理を指導します。

▶ 8月9日(土) 10:30～ / 旭区民センター調理室

小林顕作の「大人とこどもの絵本ワークショップ」

NHK Eテレのオフロスキーでおなじみの小林顕作さんによる絵本の読み聞かせワークショップ。

▶ 8月12日(火) 15:00～ / 旭区民センタープレイルーム

大人と子供の発声教室

子供たちにとって一番の発声の先生はお父さん、お母さん。子どもが楽しく歌えるコツは、一緒に歌うことからはじまります。

▶ 8月10日(日) 17:00～ / 芸術創造館

講座内容(一例)

アート・クラフト(絵本、短編映画製作、紙細工、バルーンアート、粘土スイーツ、似顔絵) / 音楽(民族楽器演奏、ジャズヴォーカル、ゴスペル、クラリネット、ハーモニカ) / 教育・あそび(英会話、スペイン語、心理学、産業遺産探検、パイ投げ、ガンアクション)、健康・生活(絵本読み聞かせ、発声、ヨガ、灸、整体、美肌、ストレッチ) / 食(シンガポール料理、紅茶、パンケーキ、食育) / 身体表現・演劇(歎異抄朗読、マンガ朗読、演劇体験) / 伝統芸能(漫才台本、講談、篠笛、殺陣、能舞、能楽囃子) / 踊り(フォークダンス、インド舞踊、バリ舞踊、ベリーダンス、ジャズダンス、ブレイクダンス、バレエ、ルンバ・フラメンカ) など100講座



昨年の実施例

後援・協力イベント

第58回大阪新能

大阪夏の風物詩。生國魂神社境内の特設舞台上で上演される能・狂言。揺らめく篝火に照らされる幽玄の世界をご堪能下さい。◆8月11日(月)～12日(火) 17:30～20:30
●雨天の場合は13日(水)に順延/生國魂神社境内/前売3,000円、当日3,500円、学生2,000円/問合せ:生國魂神社
☎06-6771-0002、FAX 06-6771-0003



©公益社団法人 能楽協会

松尾塾子供歌舞伎2014

6～14歳の子供が、大歌舞伎と変わらぬ一流スタッフの支えにより、可愛さだけに留まらない本物の歌舞伎を演じます。◆8月16日(土) 14:00開演、17日(日) 12:00開演/国立文楽劇場/観劇料6,000円/問合せ:松尾塾子供歌舞伎 ☎03-3407-7778、FAX 03-3407-5108

写真展

「家族の絆」(東日本大震災 復興支援)

「家族の絆」写真展と家族写真、シニア・ポートレートの大撮影会。家族写真のチカラで思いやりのある温かい社会を! ◆8月29日(金)～31日(日) 11:00～19:00(最終日は17:00まで)/NHK大阪放送局1Fアトリウム/観覧無料/問合せ:協同組合大阪写真家協会 ☎06-6262-1480、FAX 06-6264-2349



2014 OSAKA手づくりフェア

手芸用品、服飾材料、ホビークラフトおよび関連商品の展示・実演・講習・販売。学生によるステージショーや来場者参加型イベント、ワークショップなども企画。2年に一度の日本ボタン大賞の発表、作品展示も同時に開催されます。◆9月5日(金) 10:00～17:00、6日(土) 9:30～16:30/マイドームおおさか/入場無料/問合せ:大阪鈕服飾手芸卸協同組合 ☎06-6262-4827、FAX 06-6266-0334

大阪ハンブルク友好都市提携25周年記念共同映像「水の記憶」上映会・写真展

ともに水の都と言われている大阪とハンブルクで「水」というテーマで共同制作した映像「水の記憶」を上映。ドイツ人映画作家ブリギッテ・クラウゼのトーク付き。ハンブルク在住の写真家タイナカ・ジュンペイの写真展も併催。◆(上映会)9月12日(金) 19:00～20:30/大阪市中央公会堂/参加費:1000円/(写真展)9月9日(火)～14日(日) 11:00～19:00(最終日～16:00)/大阪府立江之子島文化芸術創造センター/問合せ:JICP大阪ハンブルク共同映像製作委員会 ☎06-6358-7943、FAX 06-6358-8241

第15回こいや祭り

市民参加型の踊るお祭り。北海道から九州まで、全国から集まった出場チームが大阪を盛り上げます。◆9月13日(土)～14日(日) 10:30～20:00(会場により開催時間が異なります)/大阪城公園太陽の広場、西梅田スクエアほか/観覧無料/問合せ:こいや祭り実行委員会 ☎・FAX 06-6585-0877



第23回ひらおか新能

緑豊かな河内国一の宮枚岡神社境内で、古典芸能の醸し出す幽玄な雰囲気一夜たっぷり浸っていただけます。◆9月27日(土) 17:30～20:30/枚岡神社(東大阪市)参道広場/観覧無料/問合せ:枚岡神社 ☎072-981-4177、FAX 072-982-8176

水都おおさか森林の市2014



森林や林業にふれる体験型イベントです。丸太切り体験やクラフトコーナー、木製品の展

示・販売やシカ肉の試食など、お楽しみがもりだくさん。◆10月5日(日) 10:00～16:00(雨天決行[荒天中止])/近畿中国森林管理局・毛馬桜之宮公園/入場無料/問合せ:水都おおさか森林づくり木づかい実行委員会事務局(近畿中国森林管理局技術普及課) ☎06-6881-3484、FAX 06-6881-2055

～みんなで楽しむ吹奏楽の祭典～ ＜ブラス・ジャンボリー2014 in大阪＞

吹奏楽経験者も初心者も、大人も子どももみんな大歓迎!これから管楽器をやってみたい「はじめてさん」も手ぶらで参加OK。今年は吹奏楽のプロ集団「大阪市音楽団」もゲスト参加。一緒に宇宙戦艦ヤマトを演奏しよう。◆10月13日(月祝) 10:00～17:00/ATCホール/参加費:♪経験者コース:一般3,500円、団体(2名様以上)3,000円 ♪はじめてさんコース:おひとり様3,500円/申込期間:9月30日(火)まで/問合せ:「ブラス・ジャンボリー2014 in大阪」実行委員会事務局 ☎06-6465-0166(9:00～17:00土日祝は除く)詳しくはWEB「ヤマハ ジャンボリー」で検索。

升の市

日本の「市」の起源といわれ、江戸時代には松尾芭蕉も見学に訪れた大阪の庶民の伝統行事を復活。◆10月17日(金) 9:30～15:30/住吉公園内/入場無料/問合せ:住吉大社「升の市」実行委員会 ☎06-6782-6274、FAX 06-6782-6277

なにわ建築フェスタ「2014年児童画展」

「こんな街に住んでみたい」をテーマに大阪府内の幼稚園、保育園、絵画教室から小学生以下の子どもたちの絵画作品を募集中。優秀な作品に表彰あり。◆(発表展)10月18日(土) 12:00～18:00、19日(日) 10:00～18:00/イオンモール鶴見緑地/応募期間:9月3日(水)まで/問合せ:大阪府建築士事務所協会 ☎06-6946-7065、FAX 06-6946-0004



2013年児童画展/関西・大阪21世紀協会賞
竹口大翔ちゃん(3歳)上代幼稚園
「ウィザードのおうち」

※イベント内容の詳細については、各問合せ先にお問合せください。
※ここに紹介する以外にも、関西・大阪21世紀協会は多数のイベントなどを後援しています。



活動の助成を受けたい団体に!

日本万国博覧会記念基金の助成事業募集中

助成の対象となる事業

平成27年4月1日から平成28年3月31日までの間に実施される事業で、万博の成功を記念するにふさわしく、かつ公益的な活動を対象としています。

国際相互理解を促進する活動

- ・国際文化交流、国際親善に寄与する活動
- ・学術、教育、社会福祉、医療および保健衛生に関する国際的な活動
- ・自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動

文化的活動

- ・日本の伝統文化の伝承や振興活動
- ・芸術および地域文化に関する活動



申請書受付期間：平成26年9月1日～30日

募集説明会のご案内

日時：平成26年8月7日(木) 15:00～

場所：中之島センタービル29階・294会議室 大阪市北区中之島6-2-27

詳細は当協会HPをご覧ください。

<http://www.osaka21.or.jp/jecfund/>

お問合せ (公財)関西・大阪21世紀協会 万博記念基金事業部 ☎06-7507-2003、FAX06-7507-5945

爽やかな秋の週末を音楽とともに!

大阪城フェスティバル2014

Brass Boot Up! & 大阪城ガラ・ナイト

大阪の陣400年天下一祭 連携イベント



藤岡幸夫氏

10月4日(土)・観覧無料

第1部 Brass Boot Up!

13:30～15:30(予定) / JR大阪城公園駅前広場周辺
藤岡幸夫氏(関西フィルハーモニー首席指揮者)の指揮で、大阪が誇る高校吹奏楽部がダイナミックな演奏を披露します!

第2部 大阪城ガラ・ナイト

18:00～20:00(予定) / 川の駅大阪城港付近の船上特設舞台
オペラ・アリアをロマンチックな水辺でお楽しみください!

お問合せ (公財)関西・大阪21世紀協会 文化事業部
☎06-7507-2006、FAX06-7507-5945



高校生吹奏楽(イメージ)



オペラアリア会場(イメージ)

関西・大阪21世紀協会賛助会員へ
入会のお願い

関西・大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

会費(何口からでも結構です)

- 法人会員一口につき年会費10万円
- 個人会員一口につき年会費1万円

特典

- 1.協会が発行する刊行物の配布
- 2.協会が主催する各種セミナーなどへの案内
- 3.賛助会員の参考となる情報・資料の提供など

お問合せ (公財)関西・大阪21世紀協会 総務部